学校番号	2003

平成 31 年度　公民科

教科	公民	科目	政治経済	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「高校　政治・経済」　（実教出版）						
副教材等	政治・経済資料　（とうほう）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現代の政治経済の流れが、教科の内容と結びつくように、新聞のニュース等も教材の中で紹介。演習問題を通して、現在の世界や日本の政治経済の流れを自然に関心が持てるようにしていく。

2　学習の到達目標

1. 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深化させる。
2. 現代の政治、経済、国際関係に関する興味・関心を引き出し、その客観的な理解をはかる。
3. 現代の政治・経済に関する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養わせる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の政治、経済、国際関係について関心を高め、それぞれの課題を意欲的に追究する態度を身につけている。	・国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、且つ集めた情報を主体的に選択し効果的に活用している。 ・学習を通して追究した過程や結果を、的確に表現することが出来る。	・現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。
評価方法	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査 実力課題	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査 実力課題	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査 実力課題	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査 実力課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、前期と後期に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 第1考査まで	第1編 現代の政治 1民主政治の基本原理 2日本国憲法の基本原理 3日本の政治機構	・国内政治や国際政治の基本的事項と民主政治の本質。 ・人権保障、国民主権、法の支配、民主主義の原理やその発展。	○	○	○	○	a: 日本国憲法の成立過程や国民主権、基本的人権の尊重、平和主義といった基本原則に対して興味・関心を抱いている。 b: 憲法条規上の国会、内閣、裁判所や地方自治の規定と、現実の三権の状況や中央と地方との関連などを的確に比較し考察している。 c: 日本国憲法の成立や人権保障に関する情報を、様々な手段を使い収集している。 ・人権問題に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。 d: 国会、内閣、裁判所、地方自治について、憲法条規に照らし合わせて、その仕組みや権限、さらに相互の均衡と抑制の在り方などを理解している。 ・日本の政党や政党政治について、一つの党派に片寄らないバランスの取れた理解を示している。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査 実力課題

前期の第二考査まで	4 現代日本の政治 5 現代の国際政治	・現代の国際社会 ・安全保障についての考え方や、国家間の対立、民族紛争といった国際紛争の諸要因	○ ○	 ○	○	○	a: 現代の国際社会における政治の動向に対して、関心が高まっている。 ・安全保障についての考え方や、国家間の対立、民族紛争といった国際紛争の諸要因を意欲的に探究している。 b: 国内政治と国際政治の違いを、現実の状況を踏まえて多面的に考察している。 ・これからの国際社会における国際連合の在り方について、ポスト冷戦という新しい状況の中、様々な考え方を踏まえ公正に判断している。 c: 現代の国際社会における政治の動向に関する諸資料を、様々なメディアを通して収集している。 ・国際社会における今後の日本のかかわりに関して追究し考察した過程や結果を、口頭や文章などで適切に表現している。 d: 二つの大戦や冷戦といった国際対立の経験を通じ、国際間の相互依存、紛争の平和的解決のための国際機構や国際法が発達してきたことを理解し、その知識を身につけている。 ・核兵器と軍縮、難民問題といった今後解決すべき国際社会の諸課題について、的確な理解を示している。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査 実力課題

前期の第三考査まで	第二編　現代の経済 1経済社会の変容 2現代経済のしくみ	・日本経済の現状やその課題 ・資本主義や社会主義という経済体制の特質と、その変容 ・市場のはたらきや国民所得、景気変動など経済の基本的事柄 ・バブル崩壊と金融、財政の課題	○ ○	○ ○	○ ○	○	a・市場機構や景気変動、金融・財政といった経済の諸理論に対して関心を深め、理論との関連を踏まえながら現実の経済活動を探究する意欲的な態度が見られる。 b：家計、企業、政府の経済主体間の経済循環を、現実の経済活動と対応させながら考察している。 c：国富やＧＤＰ、金融や財政などに関する統計資料を、各種白書などを利用して的確に収集している。 ・収集した資料の中から、景気変動や金融・財政政策などの学習に必要な情報を主体的に選択して活用している。 d：適切な価格決定や資源配分といった市場経済のもつ特性を理解するとともに、その限界についても考察を加えている。 ・金融や財政に関する基本的な知識をもとに、金融改革や財政改革といった日本経済の課題に対する十分な理解を示している。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査 実力課題

後期の第4考査まで	3 現代経済と福祉の向上 4 世界経済と日本	・貿易の意義や国際収支と為替相場の仕組み ・戦後の国際経済の流れと地域統合や経済摩擦、南北問題	○ ○	○	 ○	○	a: 現代の国際経済の動向に対する関心が高まっている。 ・商品、労働力、資本、情報がボーダレスで移動するなど、国際的な相互依存関係が深化する国際経済の特質を意欲的に追究している。 b: 現代の国際経済の動向から、課題を見いだしている。 ・経済のグローバル化の動きに対して、商品や労働力、資金の移動などから多面的・多角的に考察するとともに、競争原理を前提としたグローバル化の弊害についても的確な判断を示している。 c: 現代の国際経済の動向に関する諸資料を、様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料から、グローバル化の進展など国際経済の特質、国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割などについての情報を主体的に選択して活用している。 d: 自由貿易と保護貿易の考え方、国際収支表の見方や為替レートの仕組みなど、国際経済に関する基本的な知識を習得している。 ・自由貿易を前提とした戦後国際経済の流れを理解し、国際通貨基金や世界貿易機関などの仕組みに関する知識を有している。 ・グローバル化が進む国際経済の動向の中で、地域的経済統合や南北問題の新たな局面を理解している。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査 実力課題

後期終了まで	第3編　現代社会の諸課題	政治や経済に関する基本的な理解と、現代の政治や経済の諸課題	○	○	○	○	a:現代日本の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考察しようとしている。 b: 現代日本の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。 c: 現代日本の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択し活用している。 d:世界と現代日本の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身につけている。	提出課題 実力課題